

授業科目	基礎看護学統合演習	学年	3学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	本科目では、1・2年次に学んだ生活援助技術・診療に伴う技術・臨地実習等の学習を統合し、健康が障害された対象の個別的な状態に応じた身体・生活の観察及びアセスメントと、これにもとづく対象の生活援助技術・診療に伴う技術の適切な選択・実施・評価が実践できる能力の獲得を目指す。シミュレーション学習を通し、対象の状態や状況、対象の個性に合わせた看護介入を実践しながら研究的に検討を重ね、よりよい援助の実践に繋げる。また、自らの看護実践を客観的に振り返り、引き続き開講される各専門領域の学習や実習前の自己課題の明確化を行う。		
目的	健康が障害された対象の個別に応じた生活援助技術・診療に伴う技術の適切な選択・実施・評価ができる能力を育む。		
目標	1.健康が障害された対象の個別的な状態に応じた身体・生活の観察及びアセスメントができる。 2.アセスメントにもとづく対象の生活援助技術・診療に伴う技術の適切な選択、実施、評価が実践できる 3.実践において、対象者及び看護職者に対し、状況に応じたコミュニケーションや報告・連絡・相談ができる 4.各専門領域の実習前の自己の課題を明確にできる		
評価方法	パフォーマンス評価		
使用テキスト	<系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 <系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ：医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	科目の目的と学習方法	学習課題を理解する。	オリエンテーション 状況設定シナリオと課題提示 事前学習課題の提示	講義	
2	対象理解および基礎知識の共有	対象の状況を理解し、援助計画を立案する。	対象理解 基礎知識の共有 アセスメントの基づく援助計画の立案	演習	
3	アセスメントに基づく対象への援助（生活編）①	個性性をふまえた援助を考えることができる。	援助方法の検討とプレゼンテーション	演習	<生活編の事例に取り入れる内容> ①点滴をしている対象の寝衣交換、オムツ交換 ②爪切り ③臥床状態にある対象の部分浴 ④浣腸、摘便
4	アセスメントに基づく対象への援助（生活編）②	状況に応じた個性のある援助を実践を通して学ぶ。	対象への看護実践のシミュレーション 対象への援助を実践しながらよりよい介入を検討する 自己の看護実践を振り返る	演習	
5	アセスメントに基づく対象への援助（生活編）③	状況に応じた個性のある援助を実践を通して学ぶ。	対象への看護実践のシミュレーション 対象への援助を実践しながらよりよい介入を検討する 自己の看護実践を振り返る	演習	
6	アセスメントに基づく対象への援助（生活編）④	状況に応じた個性のある援助を実践を通して学ぶ。	対象への看護実践の発表	演習	
7	自己課題の明確化とまとめ	学びを意味づけし、自己の課題を明確にする。	教員からの全体フィードバック 模擬患者、観察者からのフィードバック 自己の課題の明確化	演習	
8	対象理解および基礎知識の共有	対象の状況を理解し、援助計画を立案する。	対象理解 基礎知識の共有 アセスメントの基づく援助計画の立案	演習	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
9	アセスメントに基づく対象への援助（治療編）①	個別性をふまえた援助を考えることができる。	援助方法の検討とプレゼンテーション	演習	<治療編で取り入れる内容> ①輸血 ②輸液ポンプ、シリンジポンプ ③カテーテル類が挿入されている、吸引が必要な対象
10	アセスメントに基づく対象への援助（治療編）②	状況に応じた個別性のある援助を実践を通して学ぶ。	対象への看護実践のシミュレーション 対象への援助を実践しながらよりよい介入を検討する 自己の看護実践を振り返る	演習	
11	アセスメントに基づく対象への援助（治療編）③	状況に応じた個別性のある援助を実践を通して学ぶ。	対象への看護実践のシミュレーション 対象への援助を実践しながらよりよい介入を検討する 自己の看護実践を振り返る	演習	
12	アセスメントに基づく対象への援助（治療編）④	状況に応じた個別性のある援助を実践を通して学ぶ。	対象への看護実践の発表	演習	
13	自己課題の明確化とまとめ	学びを意味づけし、自己の課題を明確にする。	教員からの全体フィードバック 模擬患者、観察者からのフィードバック 自己の課題の明確化	演習	
14	看護計画立案	個別性と優先度を考慮した援助計画の立案を理解する	個別性と優先度を考慮した援助計画の立案 看護計画立案 まとめ	演習	
15	パフォーマンス評価				

授業科目	救急看護	学年	3学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	救急処置に始まる救急看護は、救急外来にとどまらず、プレホスピタルでの活動、災害急性期の看護、一般市民への救急処置など役割が拡大・深化が進んでいる。そのため救急看護はすべての看護職が学ぶべきものであると言える。本科目では、救急看護の基礎から臨床実践へと応用するための知識と技術について学ぶ。		
目的	救急看護の基礎から臨床実践へと応用するための基本的知識と技術について学ぶ。		
目標	1.救急医療の概念・現状と看護師の役割について理解する 2.救急医療を必要とする患者の特徴について理解する 3.救急看護の実際について理解する 4.心肺蘇生と生命維持の実際について理解する		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座>別巻・救急看護学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	救急看護とは	救急看護の特徴と看護の場、救急看護の対象について理解する	救急看護の概念 救急看護の対象の理解	講義	
2	救急看護体制と看護の展開	救急医療・集中治療における看護の概要について理解する。	初期・第二次救急医療・第三次救急医療における対応 院内急変時・在宅療養・学校保健における対応 救急患者のトリアージ	講義	
3	心肺停止状態への対応	心肺停止状態への対応を理解する。	一次救命処置（BLS） 二次救命処置（ALS） 小児の心肺蘇生	講義	
4	心肺停止状態への対応②	一時救命処置（BLS）が実施できる。	演習：状況に応じた一時救命処置（BLS）の実際	演習	
5	人工呼吸療法①	人工呼吸療法について理解する。	人工呼吸療法 人工呼吸器の設定方法 人工呼吸器使用の流れ 加温・加湿器と人工鼻		
6	人工呼吸療法②	人工呼吸中のモニタリング、管理について理解する。	人工呼吸中のモニタリング、パルスオキシメーター		
7	意識障害への対応 呼吸障害への対応	意識障害のある患者の初療時の看護が理解できる 呼吸障害のある患者の初療時の看護が理解できる	意識障害とは、意識障害時の救急処置・看護 てんかん 呼吸障害とは、呼吸障害時の救急処置・看護 窒息	講義	
8	ショック・循環障害への対応	ショック・循環障害のある患者の初療時の看護が理解できる	ショックとは、ショックをきたす要因と疾患、ショック・循環障害時の救急処置と看護、咬傷の対応	講義	
9	体温異常への対応	体温異常のある患者の初療時の看護が理解できる	熱中症・悪性高熱症・低体温症とは、救急処置と看護 溺水への対応	講義	
10	外傷への対応	外傷患者の初療時の看護が理解できる	外傷とは、外傷時の救急処置と看護 刺傷、止血法、創傷処置	講義	
11	熱傷への対応	熱傷患者の初療時の看護が理解できる	熱傷とは、熱傷時の救急処置と看護	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
12	中毒への対応	中毒患者の初療時の看護が理解できる	中毒とは、中毒時の救急処置と看護 胃管挿入、胃洗浄	講義	
13	精神症状への対応、 緊急事態への対処	精神症状への対応、自殺暴力無断離院への対処と予防が理解できる	精神症状があるときの救急処置 精神症状がある患者の初診時の看護 自殺暴力無断離院への対処と予防	講義	
14	救急時の看護技術	救急時の対応が理解できる	救急患者の搬送の実際、止血法・創傷処置の実際	演習	
15	テスト				

授業科目	終末期看護	学年	3学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	医療の進歩や発展の一方で、悪性腫瘍であるがんは年々増加傾向にあり、現在2人に1人が罹患するとされている。がんを患い人生の終末期を迎える対象者の生活や健康支援は、重要な状況にある。また、我が国は高齢化が進行し、世界に先駆けて超高齢社会となっている。超高齢社会は多死社会の到来を意味し、緩和ケアや尊厳ある看取りなど終末期看護がこれまで以上に重要視されている。人生の最終段階における医療・ケアがどのように行われているのか、対象の気持ちに寄り添い、最後までその人らしく生を全うできるような全人的な医療の提供や苦痛の緩和、生活の質が高まるような看護について学ぶ。そして、生命の尊厳や生きる意味、その人にとってのよりよい生活について考える機会とする。		
目的	終末期にある対象者の全人的苦痛を緩和するために行われる医療や看護について学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.終末期看護の特徴について理解する。 2.緩和ケアについて理解する。 3.全人的ケアの実践について理解し、援助として実施できる。 4.終末期における対象を支える人のケアについて理解する。 5.思春期・若年成人・周産期における終末期看護について理解する。 6.小児における終末期看護について理解する。 7.成人期・高齢者における終末期看護について理解する。 8.地域療養者の終末期看護について理解する。 9.臨死期の特徴と必要なケアについて理解する。 10.エンゼルケアについて理解し、ケアとして実施できる能力をもつ。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座 別巻>緩和ケア：医学書院 <系統看護学講座 別巻>がん看護学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	終末期の特徴と緩和ケア	終末期の特徴と緩和ケアについて理解する	終末期の特徴、終末期医療と看護の機能・役割 エンド-オブ-ライフ-ケア アドバンス-ケア-プランニング	講義	
2	緩和ケアにおけるチームアプローチと倫理的課題	緩和ケアにおけるチームアプローチと倫理的課題について理解する	緩和ケアにおけるチームアプローチの意義、求められる専門性、メンバーシップとコミュニケーション、倫理的課題	講義	
3	全人的ケアの実践1	身体的ケア、苦痛のマネジメントについて理解する	身体的ケア 身体的苦痛のマネジメント	講義	
4	全人的ケアの実践2	日常生活の援助について理解し、援助として実施することができる	身体的ケア 日常生活を支える援助	講義・演習	
5	全人的ケアの実践3	心理的・社会的ケアとスピリチュアルケアについて理解する	心理的ケア 生命をおびやかす疾患と治療による心への影響と適応 対象の心理状態の理解（死の受容過程やストレスコーピングなど）、精神状態のアセスメント おもな精神症状と対応 社会的ケア 暮らしのなかの多様な支援	講義	
6	全人的ケアの実践4		疾患・障害をもつ療養者の暮らしの支援 スピリチュアルケア 病の経験と苦悩 全人的苦痛とスピリチュアルケアの必要性 スピリチュアルペイン スピリチュアルケアの実践		
7	終末期における対象を支える人のケア	家族、医療スタッフのケア	家族ケアとグリーフケア 医療スタッフのケア	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
8	思春期・若年成人・周産期における終末期看護	思春期・若年成人・周産期における終末期看護について理解する	思春期・若年成人における終末期看護 周産期における対象の終末期看護 流産・死産におけるグリーフケア	講義	
9	小児における終末期看護	小児における終末期看護について理解する	終末期にある子どもと家族の看護	講義	
10	成人期・高齢者における終末期看護	成人期・高齢者における終末期看護について理解する	ライフステージにおける終末期 成人期にある人、高齢者の終末期看護	講義	
11	地域療養者の終末期看護	地域療養者の終末期看護について理解する	終末期にある地域療養者の看護	講義	
12	臨死期のケア	臨死期の特徴と必要なケアについて理解する	臨死期の概念とケアの目標、臨死期における全人的苦痛の緩和、死亡前後のケア、急変時のケア	講義	
13	エンゼルケア1	エンゼルケアについて理解し、ケアとして実施することができる	エンゼルケアの目的、留意点、方法	講義	
14	エンゼルケア2			演習	
15	テスト				

授業科目	看護管理	学年	3 学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	看護は対象者への援助であり、多くの場合継続性を必要とし、一人の看護師だけで対象者のニーズを満たすことは難しい。看護サービスを提供するためには、看護師同士の協働、多職種との連携、そして対象者自身や家族の協力とともに対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となる。つまり、看護を提供できる知識と技能をもった人的資源、看護を提供するための環境や医療用機器などの物的資源および財的資源が必要である。これらを有効利用できるよう維持・活用するしくみが看護管理である。チームや組織をつくり、動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護師が担う役割でもある。よって、看護を管理（マネジメント）できる基礎的知識を学び、看護実践に活かせるようにする。		
目的	医療チームの一員として看護サービスを行うための看護管理、安全な看護を提供するための医療安全、感染管理を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護におけるマネジメントを理解する。 2.マネジメントに必要な知識と技術を理解する。 3.看護を取り巻く諸制度について理解する。 4.人間の特性と事故防止の考え方について理解する。 5.診療の補助における事故防止について理解する。 6.療養上の世話における事故防止について理解する。 7.看護師の労働安全衛生上の事故防止と医療安全対策について理解する。 8.感染管理に関する関係法規と感染管理組織について理解する。 9.標準予防策と感染経路別予防策の実践について理解する。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座統合分野>看護管理：医学書院 <系統看護学講座統合分野>医療安全：医学書院 <系統看護学講座専門分野>基礎看護技術Ⅰ：医学書院 <系統看護学講座専門分野>基礎看護技術Ⅱ：医学書院 <系統看護学講座統合分野>災害看護・国際看護：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	看護におけるマネジメント	看護におけるマネジメントと看護職の機能について理解する	看護におけるマネジメント 看護ケアのマネジメントと看護職の機能	講義	
2	看護ケアのマネジメントと安全管理、チーム医療	看護ケアのマネジメントと安全管理、チーム医療について理解する	看護ケアのマネジメントと安全管理、チーム医療 看護業務の実践（日常業務のマネジメント）	講義	
3	看護職のキャリアマネジメント、看護サービスのマネジメント	看護職のキャリアマネジメントと看護サービスのマネジメント	看護職のキャリアマネジメント 看護サービスのマネジメント	講義	
4	看護マネジメントに必要な知識と技術	組織とマネジメントについて理解する	組織とマネジメント	講義	
5	看護を取り巻く諸制度	看護を取り巻く諸制度について理解する	看護を取り巻く諸制度	講義	
6	人間の特性と事故防止の考え方	人間の特性と事故防止の考え方について理解する	医療安全の取り組み ヒューマンエラー 事故防止の考え方	講義	
7	診療の補助の事故防止1	診療の補助の事故防止について理解する	診療の補助の事故防止 と薬（経口、注射、輸血）	講義	
8	診療の補助の事故防止2	診療の補助の事故防止について理解する	診療の補助の事故防止 経管栄養 チューブ管理	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
9	療養上の世話の事故防止	療養上の世話の事故防止を理解する	療養上の世話の事故防止 転倒、転落 窒息、誤嚥 異食 入浴中の事故	講義	
10	労働安全衛生上の事故防止と医療安全対策	労働安全衛生上の事故防止と医療安全対策について理解する	看護師の労働安全衛生上の事故防止 職業感染 薬剤の曝露防止 放射線曝露 ラテックスアレルギー 院内暴力 医療安全対策 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 医療安全とコミュニケーション 組織的な安全管理体制への取り組み	講義	
11	感染管理（関係法規、感染管理組織）	感染管理に関連する関係法規と感染管理組織について理解する	感染管理に関する関係法規 感染管理組織と看護師	講義	
12	感染管理の実際（標準予防策1）	標準予防策の実際について理解する	感染管理の実際 病棟内での心構え 標準予防策、防護用具の着脱、針刺し予防	講義	
13	感染管理の実際（標準予防策2）	標準予防策の実際について理解する	感染管理の実際 標準予防策、カテーテル関連感染予防	講義	
14	感染管理の実際（感染経路別予防策）	感染経路別予防策の実際について理解する	感染管理の実際 感染経路別予防策 看護ケアと感染対策 国際的な感染対策（世界の三大感染症）	講義	
15	テスト				

授業科目	災害・国際看護	学年	3 学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	15
科目設定理由	人間が暮らす自然はときとして猛威をふるい、人々の命や健康を奪い、社会機能や日常生活に支障をきたす。自然災害の他、列車や航空機事故などのように人為災害もある。これら災害の被害は、被災国の医療体制や保健衛生状態が悪いほどその規模が大きくなるため、世界の国々に関心をもち、国際協力開発を進めることが重要である。他国への災害救援を行う場合は、その国の情勢を十分に把握し、その国の人々を尊重したケアを行う必要がある。このようにグローバルな視野をもち、災害看護学と国際看護学をともに学んでいく。		
目的	災害看護では、災害において人々の命と生活を守る看護の知識と技術を学ぶ。また、国際看護では海外の看護の現状や課題を知り、グローバルな視野で国際的な看護の基礎的知識を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解する。 2.被災者特性に応じた災害看護について理解する。 3.災害における応急処置と救急搬送ができる。 4.国際看護学の概念について理解する。 5.国際看護活動の現状について理解する。 6.国際救援と看護、今後の課題について理解する。 		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座統合分野>災害看護学・国際看護学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	災害看護の基礎知識	災害看護の基礎知識と災害サイクルに応じた各期の看護について理解する	災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 急性期・亜急性期 災害直後の対応 避難所での看護 慢性期・復興期 応急仮設住宅での生活支援 復興期における看護 静穏期 防災、減災へ向けた整備	講義	
2	被災者特性に応じた災害看護 1	被災者特性に応じた災害看護について理解する	被災者特性に応じた災害看護 子どもに対する災害看護 妊産婦に対する災害看護 高齢者に対する災害看護 障害者に対する災害看護 慢性疾患をもつ地域療養者に対する災害看護	講義	
3	被災者特性に応じた災害看護 2	被災者特性に応じた災害看護について理解する	被災者特性に応じた災害看護 災害とこころのケア	講義	
4	災害における応急処置と救急搬送	災害における応急処置と救急搬送を実施する	災害における健康被害 トリアージ 応急処置と救急搬送（演習）	演習	
5	国際看護学の概念	国際看護学の概念としくみについて理解する	国際看護学とは グローバルヘルス 国際協力のしくみ 文化を考慮した看護、在留外国人への看護の実践	講義	
6	国際看護活動の現状	国際看護活動の現状について理解する	国際看護活動の実際 国際看護活動の展開過程 開発途上国と看護	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
7	国際救援と看護、今後の課題	国際救援と看護、今後の課題について理解する	国際救援と看護 近年の世界における災害と難民、国内避難民の現状 国際救援活動の基本理念 国際的な災害救援および復興支援にかかるガイドライン 近年の特徴的な災害・紛争救援活動の概要 国際救援における看護の展開 今後の国際協力の課題	講義	
8	テスト				

授業科目	総合演習Ⅰ（看護理論）	学年	3 学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	総合演習Ⅰでは、これまで学習や実習での学びをふまえ、既習の看護理論を用いて自分の看護をまとめる。ケーススタディとして自分の看護実践をもとに事例研究し、看護について考察する。さらにケーススタディ発表会を通して、全体で看護に対する考えを深める。また、3年間の学びの集大成として、これまでの臨地実習で深めてきた自己の看護観をまとめる。ケーススタディも看護観も一貫した論理的なまとめになるように、教員の指導助言のもと自分の考えを表現する。看護の経験を通して、理論を活用した意味づけを行い、自己の看護観を深める機会とする。		
目的	看護の経験を通して、看護の意味付けができ、自己の看護観を深める		
目標	1.ケーススタディに取り組み、自分の看護について思考する。 2.看護に対する考えを深める。 3.看護の理論を活用して看護について探求する。 4.自己の看護観を深め自己の「看護観」をまとめる。		
評価方法	パフォーマンス評価		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>看護学概論：医学書院 <系統看護学講座 別巻>看護研究：医学書院		
参考図書	<系統看護学講座 別巻>看護情報学：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	ケーススタディ 研究計画書、はじめに	ケーススタディの意義を理解し、目的・方法を明確にする	ケーススタディとは ケーススタディの構成と各項目の記述方法 ケーススタディ研究計画書	講義・演習	
2	ケーススタディ 倫理的配慮、患者紹介、看護の実際	得られた情報から必要な情報を選択し、患者紹介、看護の実際、倫理的配慮を記述する	倫理的配慮の記載 患者紹介と看護の実際のまとめ方	講義・演習	
3 4	ケーススタディ 実施と結果	実施と結果を研究目的に沿って記述し、見直す	看護の実践と結果のまとめ方の確認 看護の実践と結果まで適切に記述されているか、指導を受けながら見直し、まとめる	講義・演習 指導	3・4回目は連続的に実施
5 6	ケーススタディ 考察	得られた結果を解釈・意味づけし、考察をまとめる	実施結果の解釈・意味付け 文献の活用 考察として実践したことを振り返り、指導を受けながら見直し、まとめる。	講義・演習 指導	5・6回目は連続的に実施
7 8	ケーススタディ おわりに、謝辞 全体のまとめ	ケーススタディで明らかになったことや得られた学びをまとめる ケーススタディの構成に従って全体を見直す	「おわりに」のまとめ方 謝辞の記載 ケーススタディの目的・対象の特性・方法などを簡潔に表す 「表題」をつける。 ケーススタディの構成に従って文章化したものの一貫性、論理性を振り返り、指導を受けながら見直す。 ケーススタディの目的が達成されたか、ケーススタディの意義を振り返る。	講義・演習 指導	7・8回目は連続的に実施
9 10	ケーススタディ 発表会	ケーススタディ発表で、看護についての考えを述べられる。 かつ、発表会を通して看護についての考えを深める。	ケーススタディで得られた学びを、学内で発表する。 発表形式に則り、自分の考えが他者に伝わるように発表する。 互いの発表を聞くことで、自分の看護についての考えを深める。	ケーススタディ発表会	9・10回目は連続的に実施

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
11	看護を考える	看護について考え、表現する	看護に対する自分の考えを言語化する	講義・演習	
12	看護理論	看護理論についての理解	自分の考える看護に近い看護理論家の主要概念をまとめる。	講義・演習	
13	看護観作成・指導	自分の看護観をまとめる1	領域別臨地実習において、自身の看護に対する考えをまとめ、指導を受けながら見直す。	演習 指導	
14	看護観作成・指導	自分の看護観をまとめる2	看護学校最後の実習「看護の統合と実践実習Ⅳ」において自分の看護観を論理的にまとめ、指導を受けながら見直し、仕上げる。	演習 指導	14・15回目は連続的に実施
15					

授業科目	総合演習Ⅱ（多重課題と臨床判断）	学年	3 学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	総合演習Ⅱでは、これまでの講義や演習、実習で学んだこと、経験してきたことを活かし、実際の臨床現場で起こり得る状況設定下で看護師に求められる思考・判断、行動ができるようシミュレーションによる演習を行い、看護技術の総合的な評価を行う。臨床では患者の急変など緊急事態が発生した際のタイムプレッシャーや過緊張にさらされる状況、また、複数の患者のニーズによる同時業務や割り込み業務の発生で多重課題に直面し、業務途中の中断など注意が分散する状況がある。多重課題がある場面で何を優先すべきか迷いや焦りを感じつつ考え、判断し、どう行動していくか、個人思考・グループ思考を繰り返す。失敗が許される安全な学習環境下でじっくり考え、実践する過程では、自分の理解や思考、行動の理由を言葉や行動で外化し、ディスカッションによりさらにより対応を考えていく。後半は状況設定問題を解きながら様々な状況における判断ができるよう知識の強化を図る。		
目的	看護実践において、適切な判断・対応ができるよう、既習の知識・技術を活用して実践的な看護を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.さまざまな状況下にある対象に応じた看護について学んだ知識・技術・態度を統合する。 2.多重課題、タイムプレッシャー発生時の対応が実践できる。 3.緊急時の対応が実践できる。 4.複数患者に対する適切な対応ができる。 5.臨床判断能力の必要性について理解を深める。 6.自己の傾向を踏まえ、看護実践における今後の課題を考える。 		
評価方法	パフォーマンス評価		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>基礎看護技術Ⅰ：医学書院 <系統看護学講座専門分野>基礎看護技術Ⅱ：医学書院		
参考図書	<系統看護学講座統合分野>看護管理：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	多重課題における事例検討、状況把握	紙上事例における多重課題の状況を理解する	タイムプレッシャー、同事業務、割り込み業務、業務中断など多重課題がある場面の状況を理解する 事例に関する自己学習	講義・個人学習	
2	多重課題の対応	多重課題の対応を考える	知識の確認テスト 設定された多重課題に対する対応について、個人思考、グループ思考する	知識の確認テスト グループワーク	
3	多重課題の対応の実際1	多重課題への対応を実践する1	多重課題への対応をグループで実践する。	演習	実習室
4	多重課題の対応の実際2	多重課題への対応を実践する2	多重課題への対応について、行動の根拠を明確にできるよう、役割を交換しながらさらに検討する。	演習	実習室
5	多重課題デブリフィング1	多重課題への適切な対応を検討する	グループで発表 2グループが組みになり、互いに行動の根拠を伝えながら丁寧に実践する。 より良い対応についてディスカッションする。	演習	実習室 (5回目・6回目 連続)
6	多重課題デブリフィング2	多重課題への適切な対応を検討し、実践する	グループ発表・デブリフィングを通して、より良い対応を実践する。	演習	
7	緊急時の対応	緊急時の対応を考える	設定された緊急時の対応について、個人思考・グループ思考する	グループワーク	実習室
8	緊急時の対応の実際	緊急時の対応を実践する	緊急時の対応をグループで実践する。	演習	実習室

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
9	緊急時デブリーフィング1	緊急時への適切な対応を検討する	グループで発表 2グループが組みになり、互いに行動の根拠を伝えながら丁寧に実践する。 より良い対応についてディスカッションする。	演習	実習室 (9回目・10回目 連続)
10	緊急時デブリーフィング2	緊急時への適切な対応を検討し、実践する	グループ発表・デブリーフィングを通して、より良い対応を実践する。	演習	
11	複数受け持ち時の計画立案 多重課題とコミュニケーション	複数受け持ち時の計画立案について理解する 多重課題の際のコミュニケーションの重要性について理解する	複数受け持ち時の計画立案 患者情報の整理と多重課題の抽出 優先順位、重症度、緊急性の判断、安全の確保 多重課題とコミュニケーション チームワークとコミュニケーション SBARを用いた報告 患者とのコミュニケーション	講義	
12	臨床判断のまとめ	臨床判断能力の必要性について理解を深める	求められる臨床判断能力と看護実践 自己の傾向を踏まえ、今後の看護実践における課題を考える	講義・個人学習	
13	状況設定下における臨床判断1	状況設定から適切な臨床判断を行う1	状況設定下における臨床判断について、個人思考・グループ思考で取り組む1	個人学習・グループワーク	
14	状況設定下における臨床判断2	状況設定から適切な臨床判断を行う2	状況設定下における臨床判断について、個人思考・グループ思考で取り組む2	個人学習・グループワーク	
15	状況設定下における臨床判断3	状況設定から適切な臨床判断を行う3	状況設定下における臨床判断について、個人思考・グループ思考で取り組む3	個人学習・グループワーク	

授業科目	総合演習Ⅲ（多職種連携）	学年	3 学年
		単位	1
時期	後期	時間	15
科目設定理由	総合演習Ⅲでは、看護だけではなく様々な職種の連携とチーム医療について学習する。患者1人ひとりに高度な医療や質の高いケアを提供するために、多くの職種が携わり、各専門職がそれぞれの専門性で対応している。各専門職がチームを組んで対象となる方の情報と目標を共有し、互いに連携・補完しあうことが大切であり、看護師はそれらの職種をつなぐ重要な役割をもつ。対象の状態や生活の様子を日々近くで観ている看護師が中心となり、多職種と情報を共有し、各専門性を活かせるように相談・調整しながら対象のより良い生活を支援していく。この科目では栄養士、薬剤師、理学療法士、社会福祉士、医師、看護師（看護学生）の各専門職の役割について確認しながら、連携の意義や方法、看護師の役割について学ぶ。		
目的	対象者の健康を守り支援する同じ目的のために、医療の専門職がそれぞれの専門性を発揮して協働する多職種連携とチーム医療について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.医療におけるさまざまな専門職とその役割について理解する 2.チーム医療と職種の連携の意義や方法について理解する 3.多職種カンファレンスの意義や方法について理解する 4.退院を見据えた患者の退院調整会議を企画する 5.患者のQOLの向上をめざし、各専門性を発揮した意見交換ができるよう退院調整会議を進行する 6.退院調整会議を通して、多職種連携やチーム医療についての学びをまとめる 		
評価方法	パフォーマンス評価		
使用テキスト			
参考図書	<系統看護学講座専門分野>看護学概論：医学書院 <系統看護学講座統合分野>看護管理：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	人々の健康を支える職業	人々の健康を支えるさまざまな専門職について理解する	医療におけるさまざまな専門職とその役割	講義	
2	チーム医療、コミュニケーション	チーム医療とコミュニケーションの意義について理解する	チーム医療と職種の連携 多職種カンファレンス	講義	
3	退院調整会議	退院調整会議について理解する	退院調整会議の目的、方法、看護師の役割について考える	講義・演習	
4	退院調整会議の企画1	退院調整会議を企画する1	退院調整会議について、各視点の目標、進行方法、調整・依頼内容、質問事項などについて考える	講義・演習	
5	退院調整会議の企画2	退院調整会議を企画する2	退院調整会議について、各視点の目標、進行方法、調整・依頼内容、質問事項などについて考える	講義・演習	
6	退院調整会議の実施1	退院調整会議を実施する1	退院後、患者がより良い生活を送れるようそれぞれの専門職がそれぞれの立場で述べられるよう会議を進行する	演習	6・7回目は連続的に実施
7	退院調整会議の実施2	退院調整会議を実施する2	患者のQOLの向上を目指し、建設的な意見交換ができるよう会議を進行する		
8	まとめ	退院調整会議を振り返りまとめる	退院調整会議を通して、多職種連携やチーム医療についての学びをまとめる。	演習・講義	